

平成28年9月2日

嬉野市議会

議長 田口好秋様

産業建設常任委員会報告書

産業建設常任委員会

委員長 大島恒典

平成28年6月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告する。

付託事件名 農業問題について

調査の理由

嬉野市における基幹産業であるお茶は、リーフ茶の消費低迷による販売価格の下落などの影響で、荒廃茶園の増加や後継者問題など様々な問題を抱えている。嬉野市では販路拡大に向けてジェトロの協力を受け進めており、現在の取り組み状況と今後の展開について調査を行った。

調査の概要

調査日 7月28日

調査場所 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
ジェトロ佐賀貿易情報センター
所長 清水 幹彦 氏

1 うれしの茶海外販路開拓戦略策定までの経過

平成27年5月29日

「キックオフ会議」佐賀企業の食品輸出に向けたジェトロ佐賀の取り組みについて説明。

- 6月10日 日経グローバル中川内記者の取材に同行し、嬉野市茶商から聞き取り
- 8月4日 「食品輸出とジェトロの活用方法」(清水所長)
(うれしの茶の海外販路開拓に向けた現状と課題)(野ロアドバイザー)
- 8月10日・11日 「ブランド創生勉強会」 a g - p e o p l e 佐々木康二氏と一緒に生産者からうれしの茶に対する思いを聞き取り。
- 9月24日 「うれしの茶」輸出検討会(清水所長)
うれしの茶輸出プロジェクト委員(24名)を招集して今後のスケジュール説明と11月9日の鹿児島商談会への出席をお願いした。
- 10月20日 「日本茶の海外市場動向と輸出における留意点」(ジェトロ本部永江氏)
「うれしの茶海外輸出に向けた残留農薬の検証」(野ロアドバイザー)
- 11月9日 「日本茶輸出商談会 i n 九州(鹿児島)」(ジェトロ主催)
に嬉野から4社出展し、海外バイヤーと直接商談を行った
- 12月21日 「日本茶の海外市場と輸出のヒント」(ジェトロ本部吉村優美子)
「うれしの茶海外販売の方向性」(野ロアドバイザー)
- 2月19日 静岡の「世界緑茶協会」「静岡県茶業農産課」「マルモ森商店」(鹿児島の下堂園茶園と連帯している茶商)を訪問し、茶の他山地情報を調査した。
- 2月25日 「鹿児島県茶業会議所」を訪問し、永峯顧問、芝専務理事と面談し、鹿児島茶の輸出に対する取り組みについて、話を聞いた。

- 2月29日 ジェトロ長崎事務所にて、Maeda-en社長、Green tea World会長の前田拓氏と面談し、米国における和カフェの状況と米国における茶ビジネスについて、話を聞いた
- 3月7～11日 サンフランシスコを訪問し、茶商、小売店、茶カフェなどを訪問し、米国における緑茶の消費動向の実態を見学した。
- 3月16日 「うれしの茶海外販路開拓戦略」を輸出プロジェクト委員会へ報告。

2 うれしの茶海外販路開拓戦略中期アクションプラン（案） 「別紙資料」

委員会の意見

今回委員会では、昨年度より取り組むことになった「うれしの茶海外販路開拓戦略」について、ジェトロ佐賀貿易情報センターの清水所長からこれまでの経緯と今後の展開について研修を行った。

茶の輸出については、国内需要の低下や、平成25年12月「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたように海外における和食ブームで緑茶も輸出への動きが活発化しており、輸出量も伸びている状況である。これまで茶の輸出は個々の商社での取り組みが主流であり、地域挙げての輸出への取り組みは珍しいとジェトロの清水所長も期待しておられた。

今回の輸出戦略で掲げている高級茶ブランドの確立については、残留農薬の問題など課題は多い。今年度より輸出専用茶園を設けて栽培に取り組むことになったが、軌道に乗るまで数年の年月が必要と思われる。また、その間輸出に耐えうる商品を作り出すためのコストは、非常に高くなると考えられる。

生産者に対する最低限の生活保証や協力体制を、官民（茶商・県・市・JA）挙げて取り組む必要があると考える。